Takashi Sonoda artworks 私は、変身という手法を用いて作品を制作しています。身体を介しながら、自然を捉え直し、それらへの新たな視点や繋がりを創り出すことを試みています。

細 現 実

EDELWEISS

葉の肖像/葉の成り行き

太陽を眺める

桜引力

崖に立つ花

青い葦

赤い水際

いつかあるいはどこかの空

雪の事象

どんぐりと風

風に運ばれ雨と固まる

クルミを並べて 100 mの列を作る

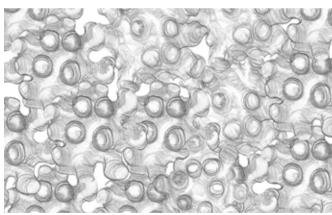
川は水平を決める

桜が散るとき桜の木もまたその花を見ている

種の彫刻







EDELWEISS

2019 「Anberaumt」(Künstlerforum, Bonn) 映像インスタレーション

2019年の3月末に私は、エーデルワイスが自生しているという場所を目指した。しかしそこに広がっていたのは一面の雪に覆われた山々だった。途方に暮れながら宿で、エーデルワイスについて調べていると、エーデルワイスは氷河期にシベリア大陸からアルプス山脈に渡ってきた氷河依存種そいう植物という事が分かった。つまりエーデルワイスは氷河とともに移動してきたのだ。本作で私は、氷河に変身しゆっくりとアルプス山脈を進む。その際に、私はもう一つの発見をする。それは雪と地面の間にもう一つ別の層、氷の結晶の層があることを発見したのだ。その結晶の形は花のようで、まさに白い小さな花そのものだった。

現在ではほとんど自生している姿を見ることのできないエーデルワイス、夏には消えてなくなってしまう氷、どちらも半分幻で半分 現実のような存在だ。私は氷河の建造物を建て、その中に氷河に変身した映像を投影したものに、エーデルワイスというタイトルを 付けることにした。









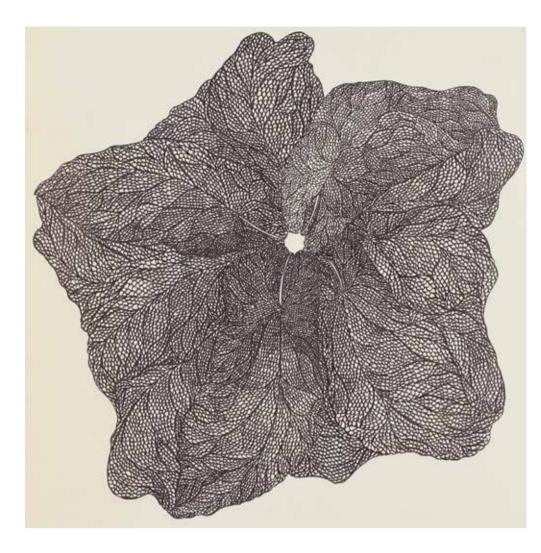


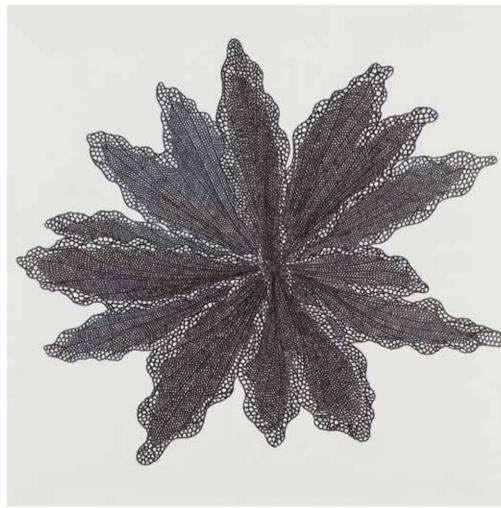












→ 葉の成り行き 2015~2016 ビデオ (3 分× 30 シーン)









葉の肖像/葉の成り行き

2015~2016

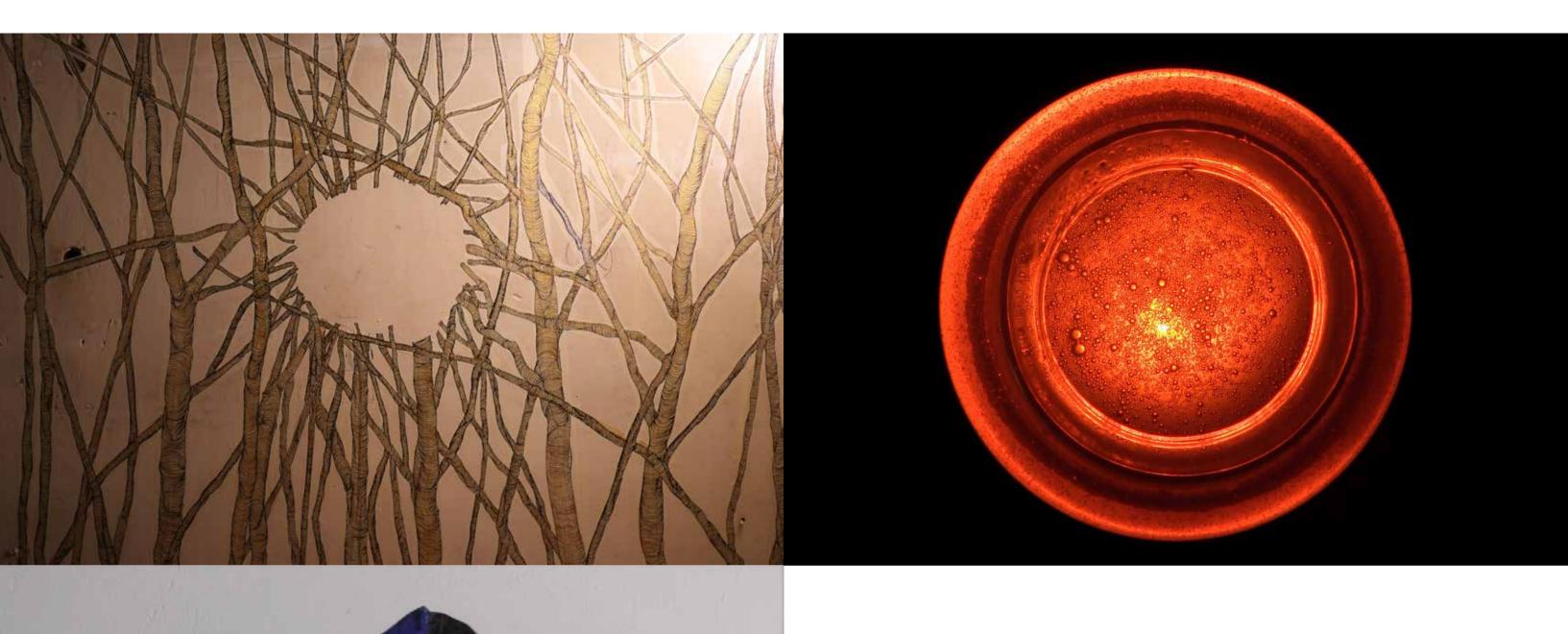
※本作は平面作品である「葉の肖像」と映像の「葉の成り行き」二つで一つの作品である。

散歩中に路肩にひっそりと咲くポピーにふと目が留まった。花は高く掲げられ、それに寄り添うように立つ泥まみれの葉っぱからは 何よりも強い生を感じた。しかしそんな葉には、名前すらない。本作で私は葉を主役にすることを試みる。「葉の肖像」は、葉っぱ を花のシルエットに当てはめるように描いている。「葉の成り行き」では葉に変身し、道端に咲く様々な花を支えることを試みた。

葉の肖像

2015~2016 キャンバス布、ペン 650 × 650 mm × 30 枚







#1 金色の林、あるいは海

マスキングテープ、アクリル ガッシュ、ペン

 $2000 \times 3000 \text{ mm}$

林や海の中から太陽を見ると、風景が金色に染まり、光の中心は消失しているように見える。もしかすると、周りの景色そのものが 太陽なのかもしれない。

#2 地球はいつも太陽を見ている

ビデオ 3 分ループ

太陽を人間が直視することは困難だ。では常に太陽の光を浴び続けている地球はなぜ平気なのか? 回転することで「見ながら見ない」 からではないのか?地球になったつもりで回転しながら太陽を眺めてみる。

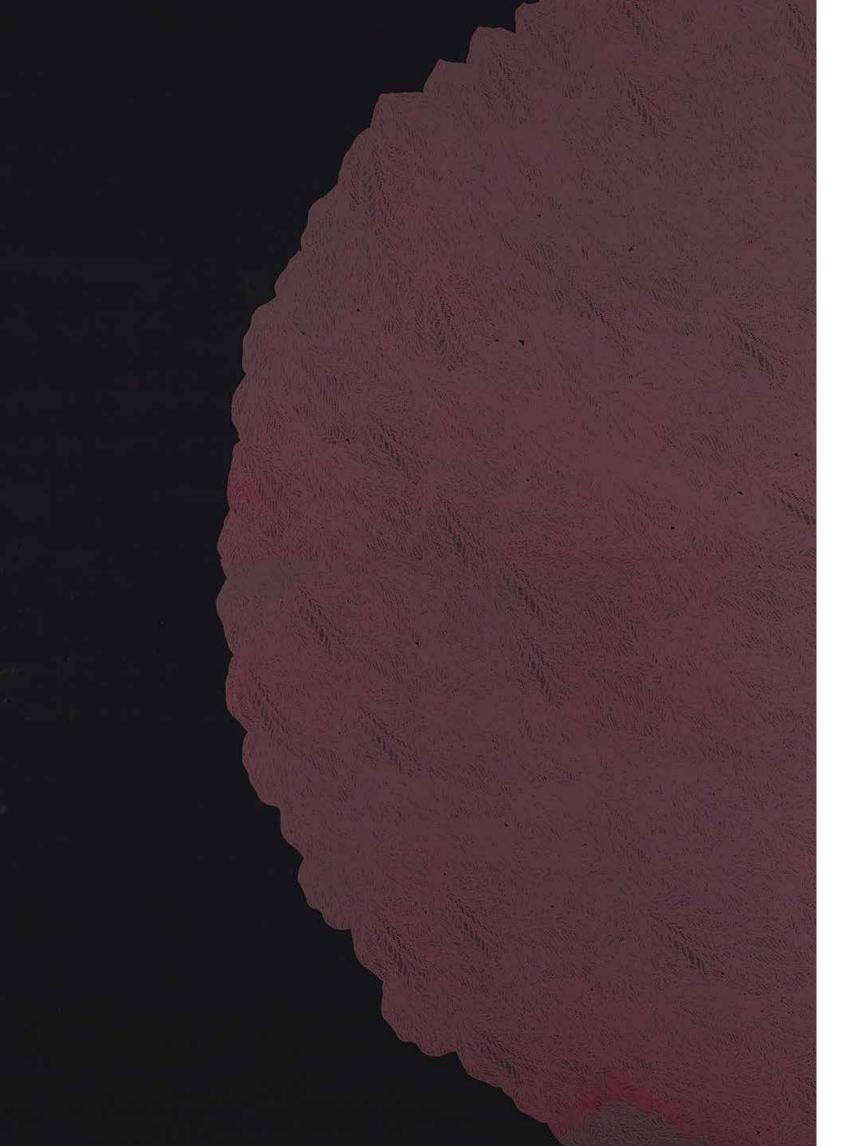
#3 すのなかのたいよう

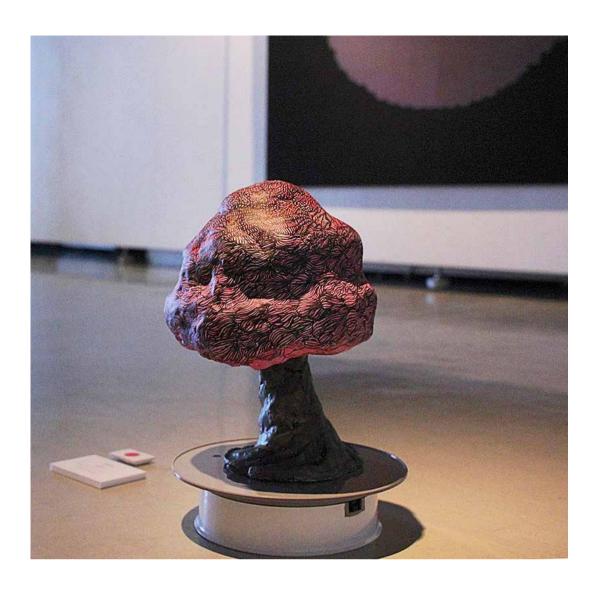
蜂挛

 $120 \times 120 \times 120 \text{ mm}$

蜂蜜を眺める。蜂蜜はミツバチが花から蜜を集めて作る。花は太陽の光を集めて蜜を作る。つまり蜂蜜を眺めることは、太陽の光を 眺めることである。







桜引力

2016

桜はなぜ、あんなにも日本人を惹きつけるのだろうか? 桜の「引力」の秘密について、私は2つの仮説を立てた。

左#桜の上に立つように

シルクスクリーンインク、アクリルガッシュ、パネル(木)

1800 × 1800mm

地球の重力は、実は桜が生み出す重力である。桜が地球の一部なのではなく、地球が桜の一部分だからである。私達は桜の上に立っているため、引力の中心である満開の桜に自然と引き寄せられてしまうのだ。

上 # 桜逆遠心力

紙粘土、ペン、ターンテーブル 1

50 × 150 × 300mm

実は桜の木は私達が知覚できないスピードで地球の自転と逆方向に回転している。その影響で桜の周りだけ地球の遠心力が相殺され、私達が桜の木に引き寄せられる現象が生じるのである。















崖に立つ花

2018 「対馬アートファンタジア 2018」 (長崎県対馬市厳原町内院地区旧小学校) ビデオ|8分

昔オウゴンオニユリが自生していたという対馬の女連(うなつら)では、山と海の境がそのまま切り立った崖となっている。山の中 は鹿やイノシシなどが多く植物は食べられる危険にさらされるが、崖は動物たちの手の届かない唯一の安全領域でもある。崖とはつ まり危険の安全の狭間であり、そのような場所では今もオウゴンオニユリが自生しているかもしれない。 私はオウゴンオニユリの葉っぱとなり、花を支えながら歩いた。現在の崖っぷち安全領域を対馬に探しながら。













青い葦

2018 「カウンターシェード」(広島芸術センター) #1 絵(鉛筆、コンテ) #2 映像(4分)

この作品は広島の吉島という場所で制作されている。吉島という名前は、もともと葦がたくさん生い茂る中洲だったことが由来であるが、最近の吉島では、あまり葦を見かけないことに気が付いた。

本作は、青い葦に変身し吉島立つというもの。普段は空や川の青色に紛れて見えにくいだけで、吉島の葦は今でもそこに立っている。



赤い水際

「菊池アートフェスティバル vol.2」 (旧竜門小学校、熊本県菊池市) 2017 映像インスタレーション

本展覧会会場の近くには竜門ダムというダムがあった。周りを観察してみると、ダムの上に真新しい水際が生まれていることに気が付いた。それは明らかに通常の水際で目にする風景とは異なる赤土で形成されたものだった。土砂災害防止や貯水の目的で建造されるダムは、もともとそこにあったものを水の底に沈め、無くしてしまうことを代償とする。少しネガティブな印象を受けるが、地形、そして陸上生物の生存可能な領域を変化させてしまう暴力的なまでのそのエネルギーは、ポジティブに捉えると、人が重力に打ち勝つ一つの方法となりえるのではないかと思った。

本作では、ダムの水に変身し、水面に見立てた板を頭上に担ぎ上げ、山を登っていく。





いつかあるいはどこかの空

2017

「益城町にアートがやってきた 熊本ゆかりのアーティスト作品展<熊本のこころとかたち>」 (犬飼記念美術館、熊本)

映像インスタレーション

朝顔の蔓は上へ上へと空を目指して進み、やがて空と同じ青い花を咲かせる。私は朝顔になり、空を目指して前進した。 実家のある熊本が大きな地震に襲われた。当時広島にいた私には何も出来なかった。そんな時に熊本県益城町の犬養記念美術館での 展示の話が来た。当事者ではない私が出来るのは、知ろうとすること、見ようとすることだけだった。遠く離れた広島から益城に寄 り添う方法を考える。今広島で見ている空はさっきまで益城で見えていた空かもしれないし、これから見える空かもしれない。広島 の空を見ることはそのまま益城の空を見ることになるのではないか。朝顔のように空へ近づくことが、広島にいながら益城に近づく 方法かもしれない。

















2018 「カウンターシェード」 (広島芸術センター、広島) 個展 写真

雪を観察しようとすると、きらきらと光を反射し、眩しくてよく見えない時がある。雪の本質について考えると、「まぶしくて見えない」 ということがその正体であると気が付いた。私はそのような雪へと変身し、光を反射させ、積極的にその姿をよく見えなくさせた。 雪の事象は見慣れた風景・歴史に中にも姿を現し、周囲の光を反射する。





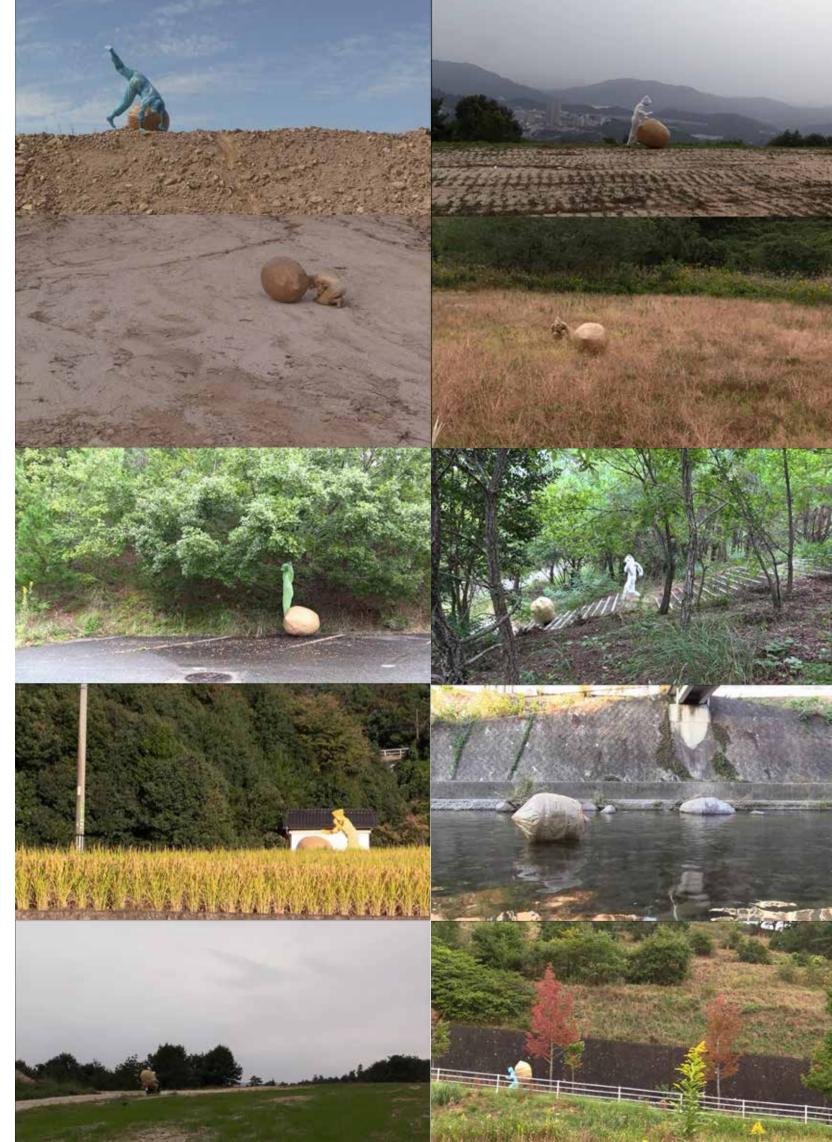
どんぐりと風の音

2017

「第2回博多阪急秋の学園祭」 (博多阪急1階、福岡)

映像 4分

ドングリを転がす「風」に私は変身した。私はよく何の当てもなく散歩をする。当たり前だが事前に計画を立てることもないし、準備もしない。その時の気分で右か左かを決めるし、目的地もない。これは人間的な行動というよりは、もっと本能的なことである。 鼻歌は無意識のうちに出て来てしまうものであり、それは風の音と変わらない。







風に運ばれ雨と固まる

2017

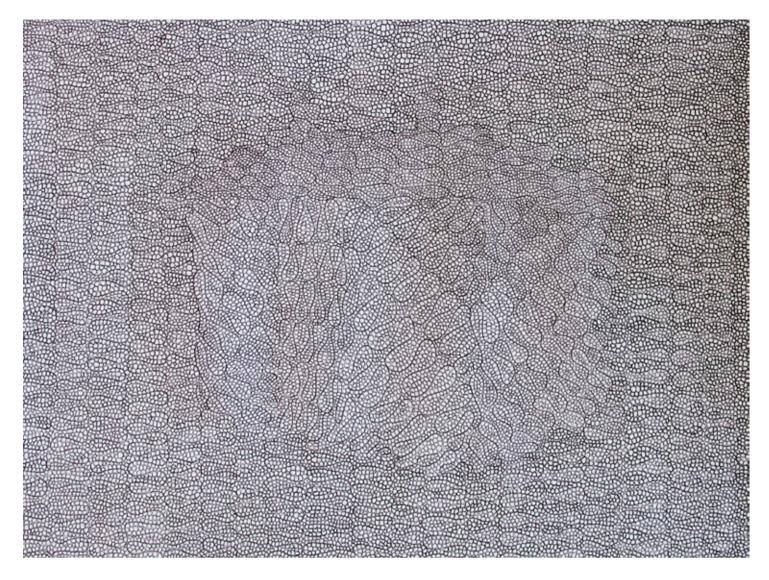
「子猫を一匹飼っている **새끼 고양이를 한 마리 기르고 있다**」 (Space Dot、広域市中区 40 階段道 10 3 階、釜山) 映像インスタレーション

韓国の泥に私は変身した。

釜山のシャガルチ市場には、色々なものが溢れかえっていた。それらは無造作に勝手に集まり、秩序はありそうでなかった。泥について、小さい頃に親から「たくさんの雑菌がいるから汚い」と言われたことを覚えている。数々の雑菌がいることは事実かも知れないが、様々な鉱物の粒子が混ざり合った泥は綺麗なもののように私には思えた。人も文化も物も、様々なものが混ざり合った釜山の市場。それらを全て吸収し形を変えながら釜山の泥は流れていく。













クルミを並べて 100 mの線を作る

2016

#1 霧と家 250 × 320 mm 紙、ボールペン

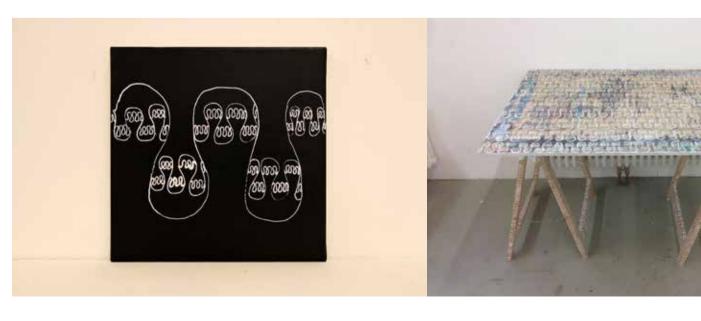
#2 霧のしくみ キャンバス、アクリルガッシュ 200 × 200 mm

#3 霧と机 机、透明テープ、アクリルガッシュ 750 × 1300 × 750 mm

#4 霧とベランカステル・クース ビデオ 4 分

これらの作品はドイツのベランカステル・クースの山の上に建つ家に滞在中に制作された。「クルミを並べて 100m の線を作る」のタイトルは滞在中に見た夢に由来している。ある霧の濃い朝、ふと顔を上げると自分が霧越しに太陽を眺めていることに気が付いた。視線を下に向けると山の麓に広がる町が見えなくなっていた。その時、霧の存在と性格を強く感じたのである。霧は何かを覆い隠すだけでなく、普段見えないものを見えるようにもする。

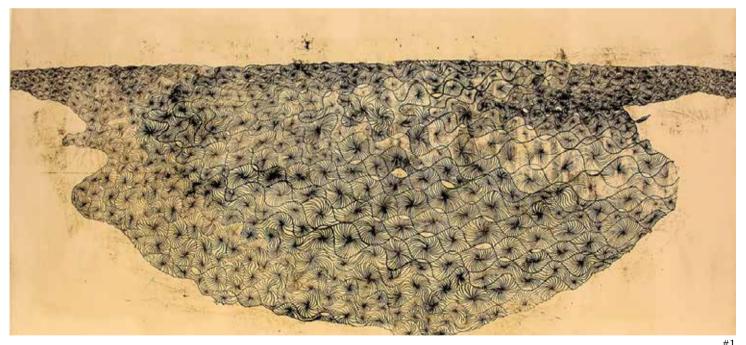
本作で私は霧に変身した。そして風景を積極的に変化させるべく試みる。











川は水平を決める

2015 #1 パネル (木)、油絵具 | 400 × 800 mm #2 ビデオ 4 分

ライン川を眺めていた時、その広大さゆえにどちらの方向に流れているのか分からなくなってしまった。川は低い方向に流れるとい うのは私達の思い込みで、川自身が意志を持って自らの進む方向を決めているのではないだろうか。本作では川を水平の基準とし、 街そのものを傾けてしまう試み。

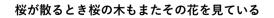








種の彫刻 2015 段ボール紙、Casein、鉛筆、ニス 170 × 300 × 170 mm



2015 ビデオ 7 分

桜の花びらがひらひらと回転しながら落ちていく様子は、美しく人を惹きつける。しかしそれは花びらの諦めが悪く、必死に抗っているからだと私は思った。 桜の花びらの代表に私は変身した。世界中の花びらの中で一番長く回り続け、諦めの悪い命の灯火を表現する。



日本には、古くから目に見えない力や恐怖心を、 擬人化という方法を用いて、視覚化してきました。 見えないという不安や恐れを、人という最も馴染 みのあるかたちに置き換え対処してきたのです。 その姿は、妖怪や幽霊として多くが現在でも残さ れています。私の活動は、場所それぞれが持つ、 目に見えない力を視覚化させる試みです。私はま ず自身の身体をそれぞれの場所に身を投じること から始めます。そして動物が擬態して天敵から身 を隠すように、私は積極的に、人からは見えない ための変身を試みます。最終的にその姿はその場 所に潜む「目に見えない力」の形態となって現れ るのではないでしょうか。

異 現 実

風車の影 柱の柱の柱 葦の肖像 月と川 対馬で想像する 空想のような絶滅 街灯は人知れず眠る ツシマオウゴンオニトラユリ









風車の影

2019

[Kunst und Raum]

(Sozialtherapeutische Gemeinschaften Weckelweiler e.V., Deutschland)

1000 × 1200 × 5000 mm× 6 枚

アートプロジェクト、「Raum und Kunst」in Weckelweiler での出品作品。

会場の Weckelweiler のからはたくさんの風車が見える。会場近隣を散歩していると、目の前を大きな影が通り抜けていったことに私は驚いた。上を見上げるとそこには大きな風車が立っていた。大きな影の正体は風車のプロペラのものだった。その影は、巨大な生き物のように目の前を走り抜けていく。

本作はそんな風車の影の正体を捉えることを試みている。作品に描かれている、鱗のような皮膚の模様は、設置場所に植えられていた三つ葉の葉っぱの構造を参考にしている。



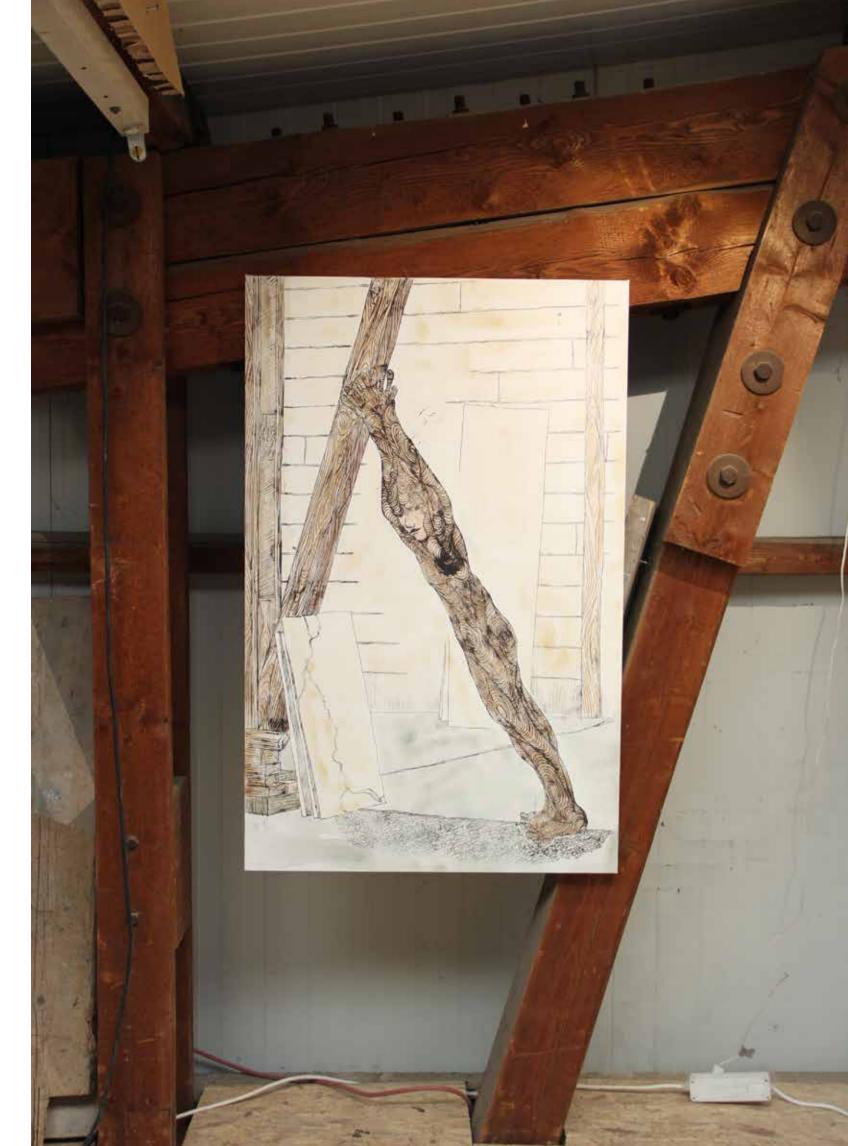




柱の柱の柱

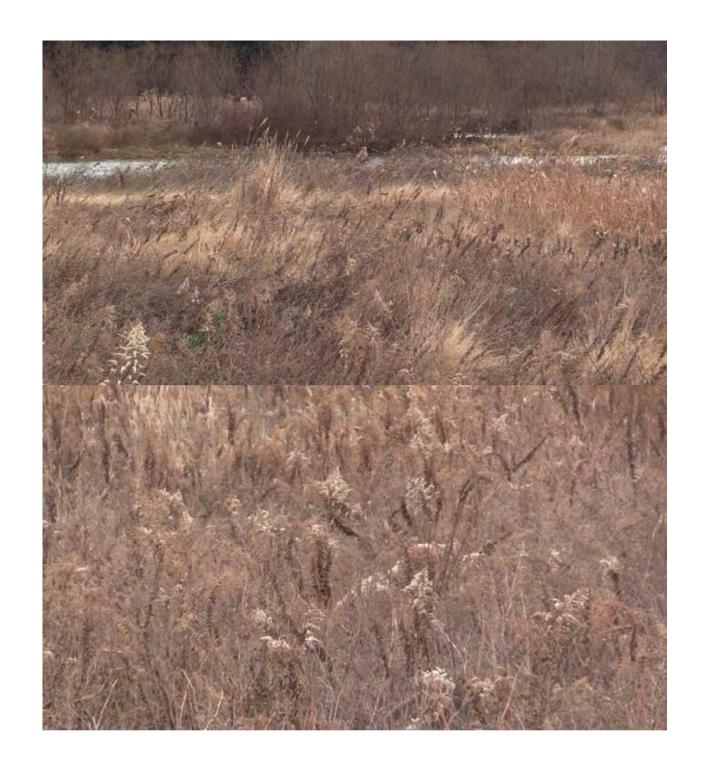
2018 「Roisdorf HALLE Ausstellung」 (Roisdorf Halle, Deutschland) 絵 | 1200 × 700 mm ビデオ | 5 Min

ドイツの建築の柱にも日本と同じように木の柱が用いられる。本展覧会会場の倉庫もむき出しの柱が特徴的な建物だった。 柱は家を支える為にあり、そしてその柱をさらに柱が支えることで、負荷を分散している。本作で私は、柱を支える柱のさらに柱に 変身した。そして気が付く、柱は支えながら、支えられていたことに。









葦の影

2018 「カウンターシェード」 (広島芸術センター) 映像(3分50秒) 絵(パネル(木)、クレヨン、アクリルガッシュ)

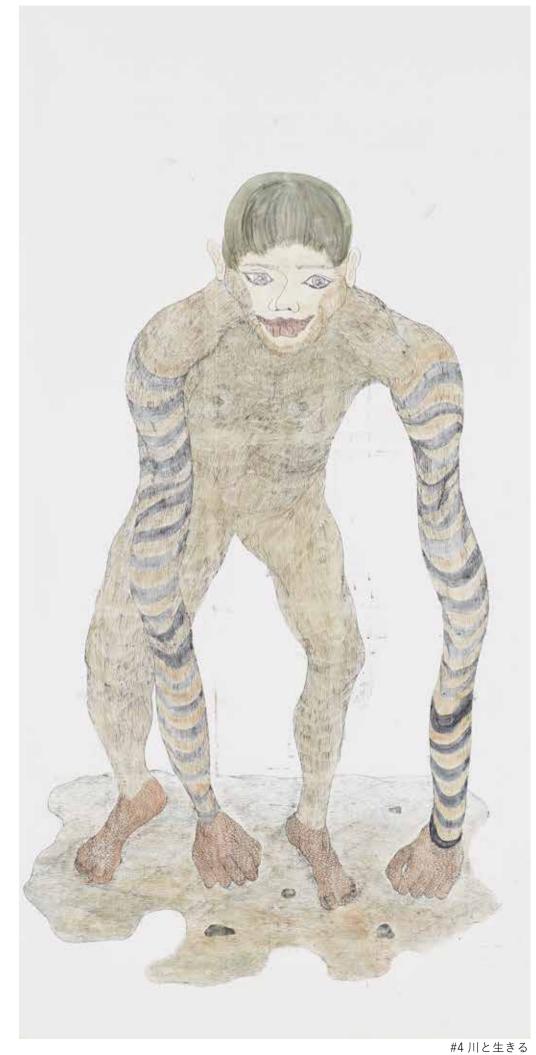
本作は、葦が茂る場所に漂う気配を可視化する試みである。 偶然、姿を捉えた映像と、細部を描いた絵を展示、パネルの東は白で着名

偶然、姿を捉えた映像と、細部を描いた絵を展示。パネルの裏は白で着色しギャラリー空間に溶け込ませるよう に設置している。

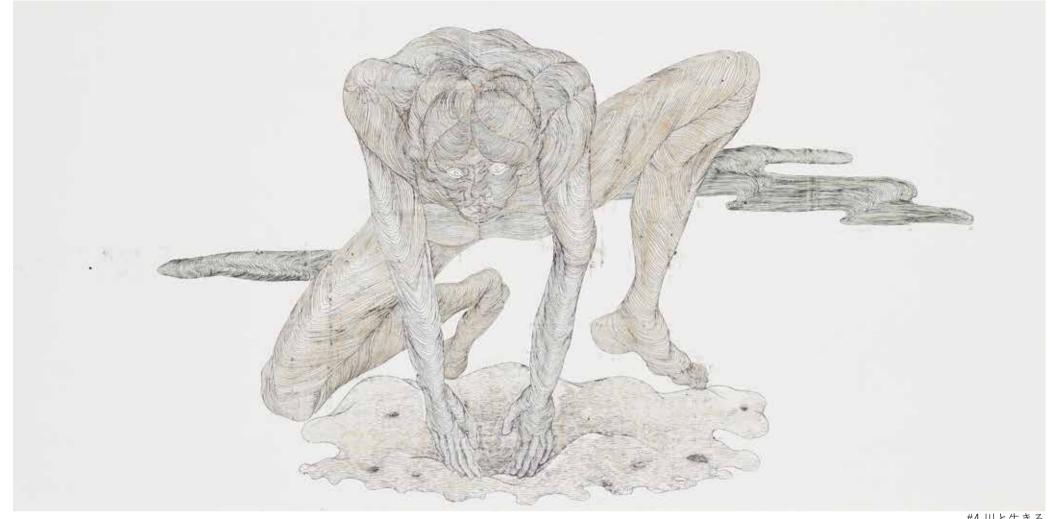




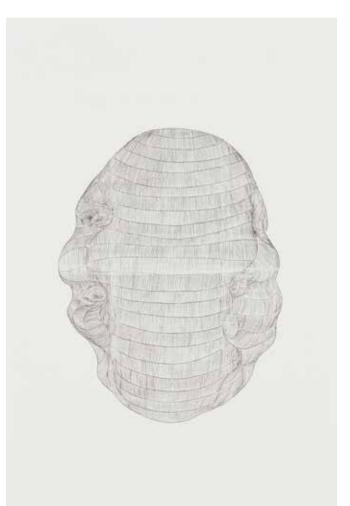








#4 川と生きる







#3 川で耐える

#4 川と生きる

木パネル、クレヨン、アクリルガッシュ 1800 × 900 mm× 3 枚

ゲーテは「植物変態論(原題: Versuch die Metamorphose der Pflanzen zu erklären、 1790)」の中で、環境の影響を受けて植物の原形が別の器官・形態を生み出すことを説 明している。中でも植物の葉が、萼片・雌蕊・雄蕊、花びらへと進化する事はよく知ら れた話である。#1 観測者 #2 共犯者 #3 川で耐える #4 川と生きるは、そのような植物変 態論の解釈に基づいて制作されている。 動物も植物も人も、それぞれ環境に適応し変身 する能力を持っている。本作 #4 川と生きるは、川に適応し形態を変化させる私自身を 想像し描いたものである。

月と川

2016

「いつも見ていた石畳の名前をふと考える|個展

(横川創苑,広島市西区横川町,広島)

#1 観測者 パネル (木)、シルクスクリーンインク、アクリルガッシュ 800 × 600 mm

#2 共犯者 紙粘土、トレーシングペーパー 300 × 300 × 300 mm

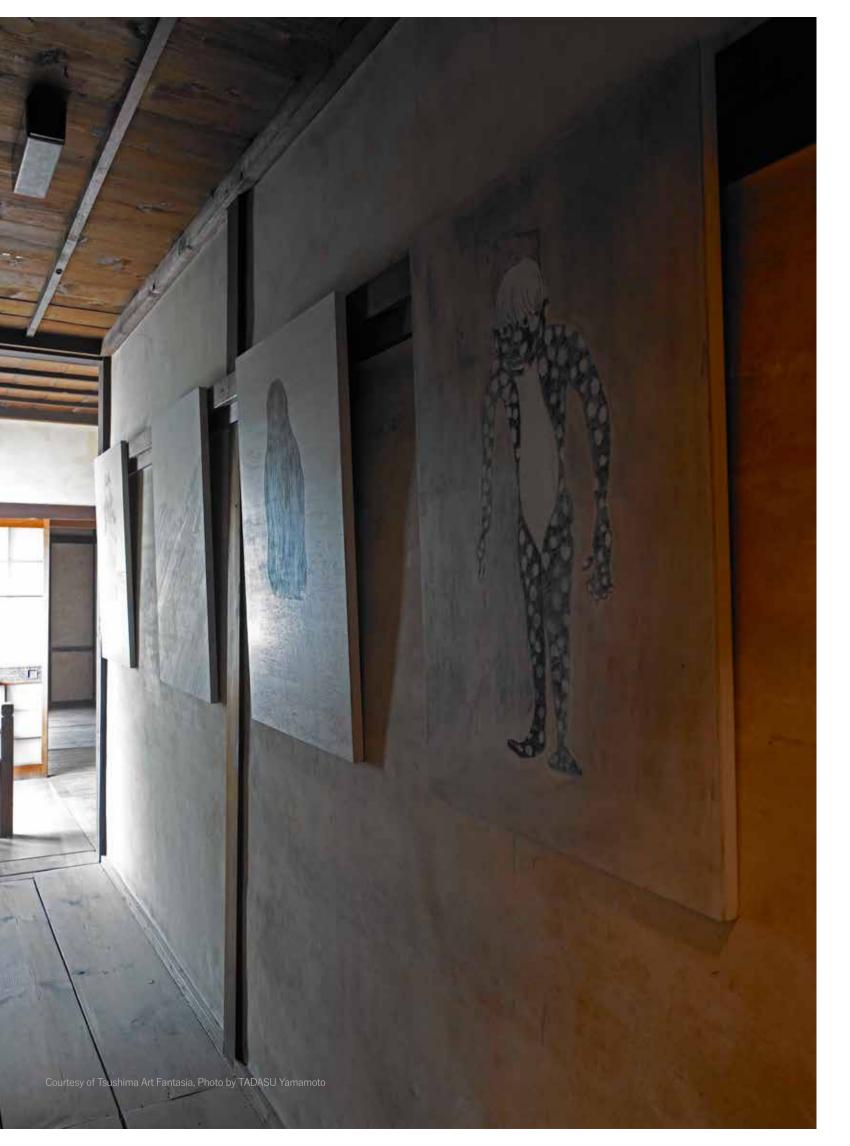
#3川と耐える 木パネル、クレヨン 900 × 600 mm × 3 枚

#4 川と生きる

#5 青い月が見えるところ <u>ビデオ 5 分</u>

環境に適応し、私は変身した。

#3 川で耐える #4 川と生きる (前ページ) では、私は川の環境に適応し変化する種子や 私自身をシミュレーションした。本作では、広島のとある橋の下でカニやシラサギやコ イが見事に適応し生息しているのを見て、私の体が川でどのように適応するのか実演し 検証を試みた。夜の川面には月が映り、橋の下には異世界のような光景が広がっていた。 結果、私の体は見事に適応できずに全身に湿疹が現れた。







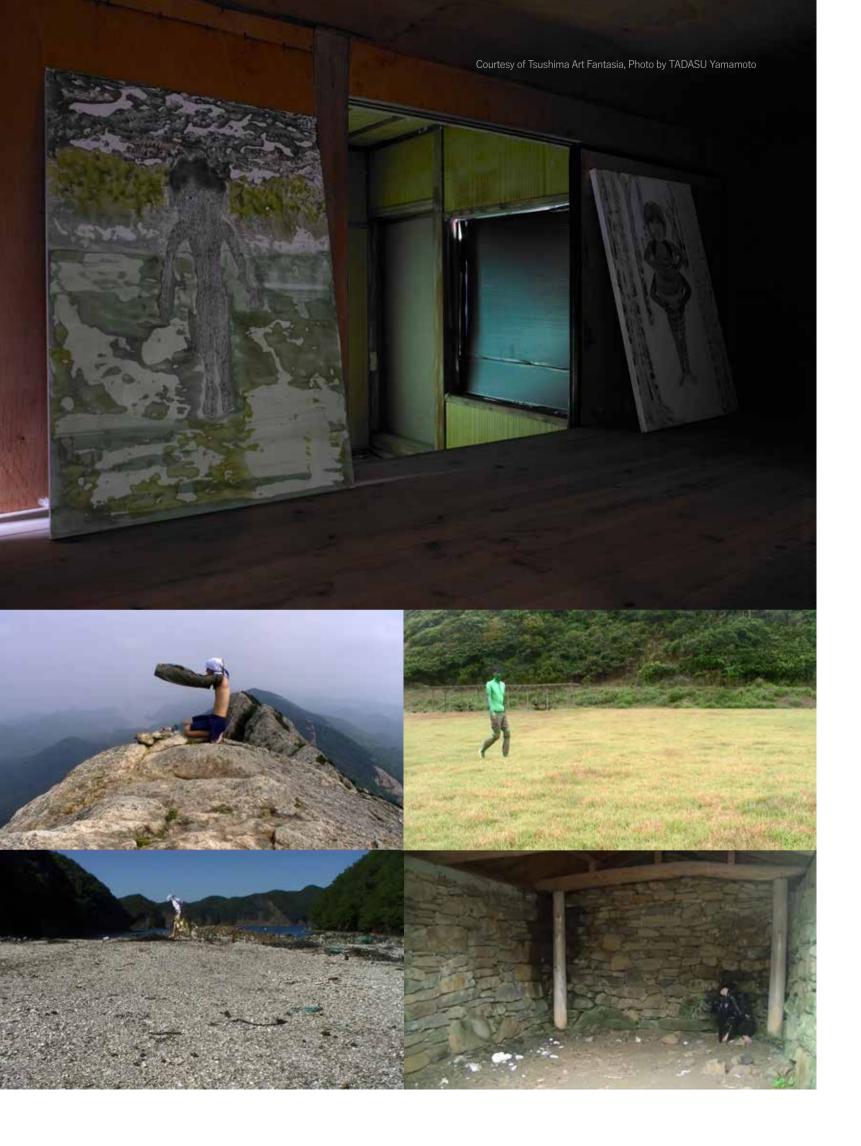
Courtesy of Tsushima Art Fantasia, Photo by TADASU Yamamot

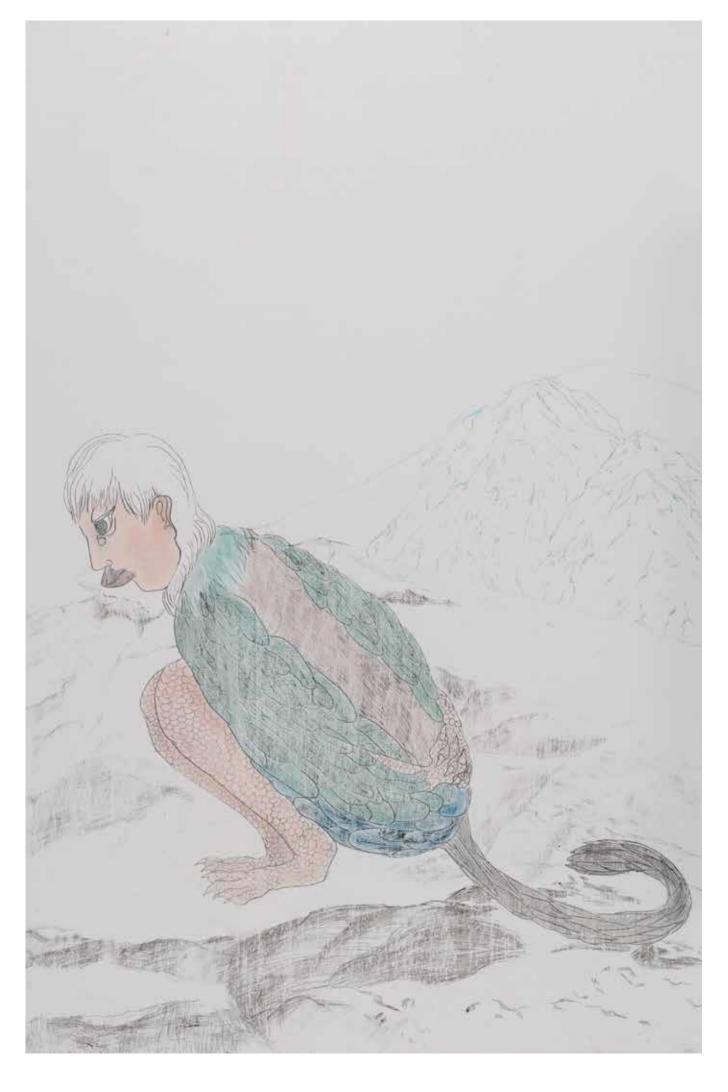
対馬で想像する

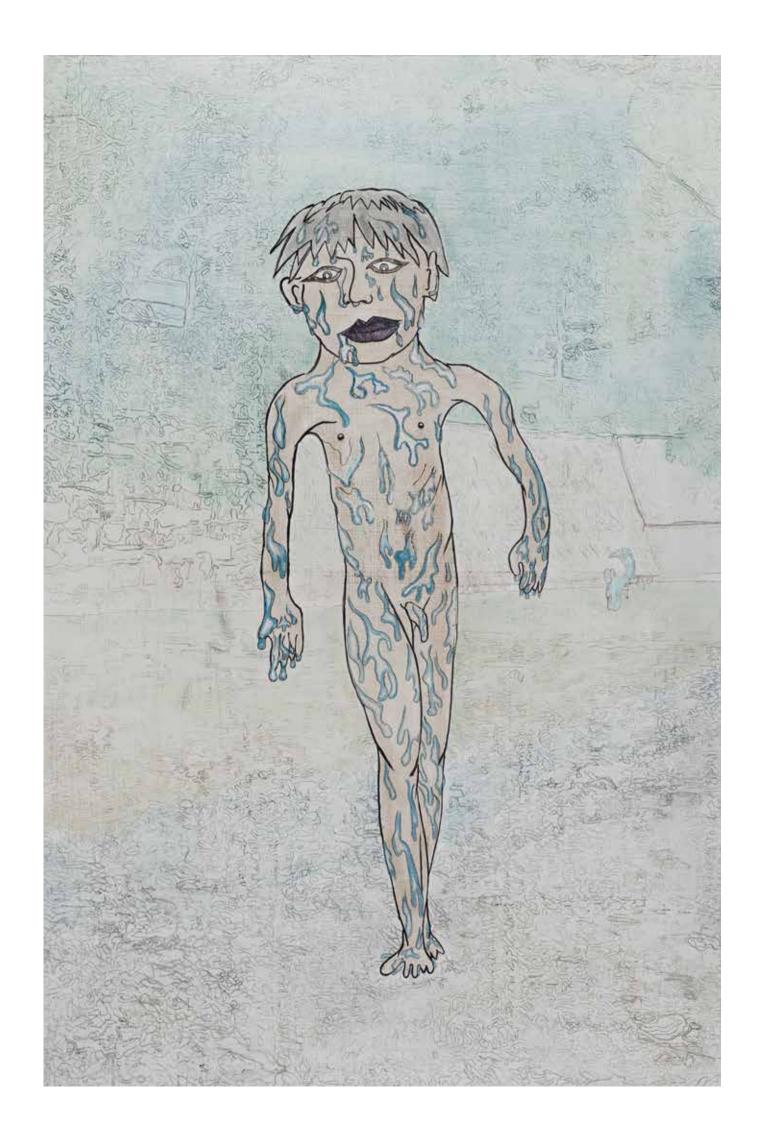
2014

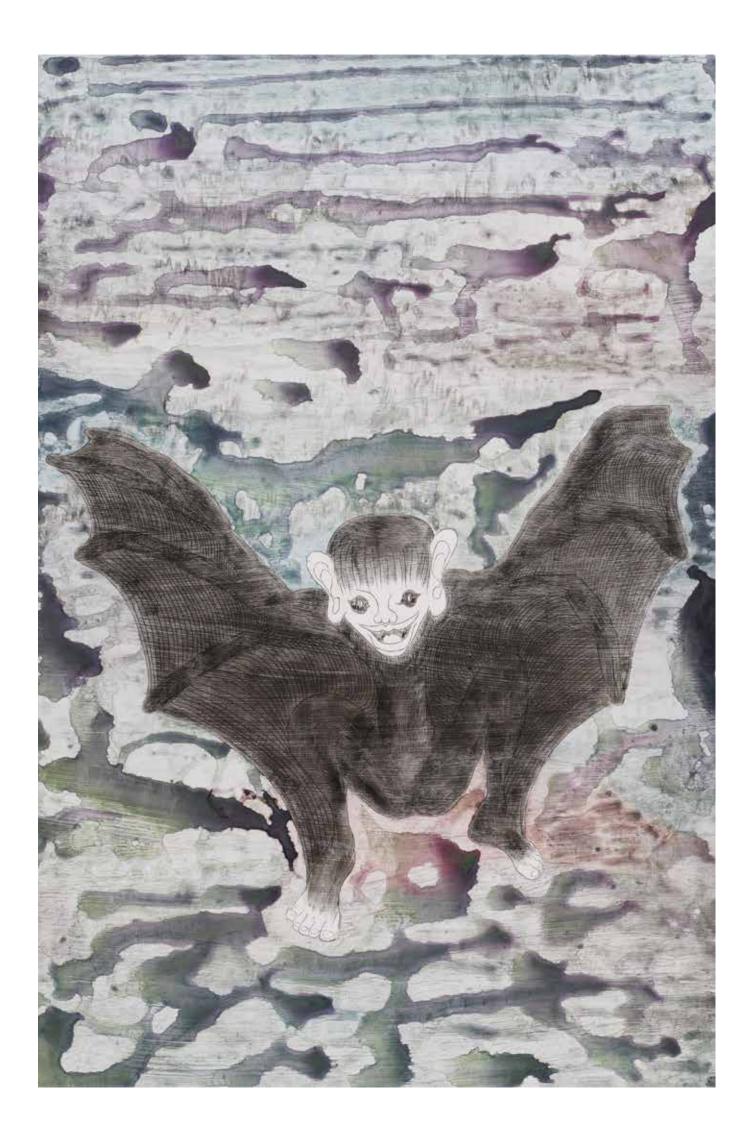
「対馬アートファンタジア 2 0 1 4」(有明壮,対馬市厳原町,長崎) 絵 900 × 600 mm× 9 枚,ビデオ 4 分

人には見えないこともあるし、反対に人にだけ見えることもある。 いつも見ている見たことのない風景。 長崎県の対馬には多くの原生林が残されている。 そこに入るのは少し怖くもあるが、人の痕跡がほとんどないのはとても珍しい事である。 対馬で私が実際に訪れた場所の「肖像」に私は変身した。日本には妖怪の話が全国どこにでもあるが、対馬にも河童や隕石など幾つかの口伝が残っている。そうした話はシーンが限定されている事が多いが、私自身の身体を用いて土地の記憶や物語を「肖像」として表現した。

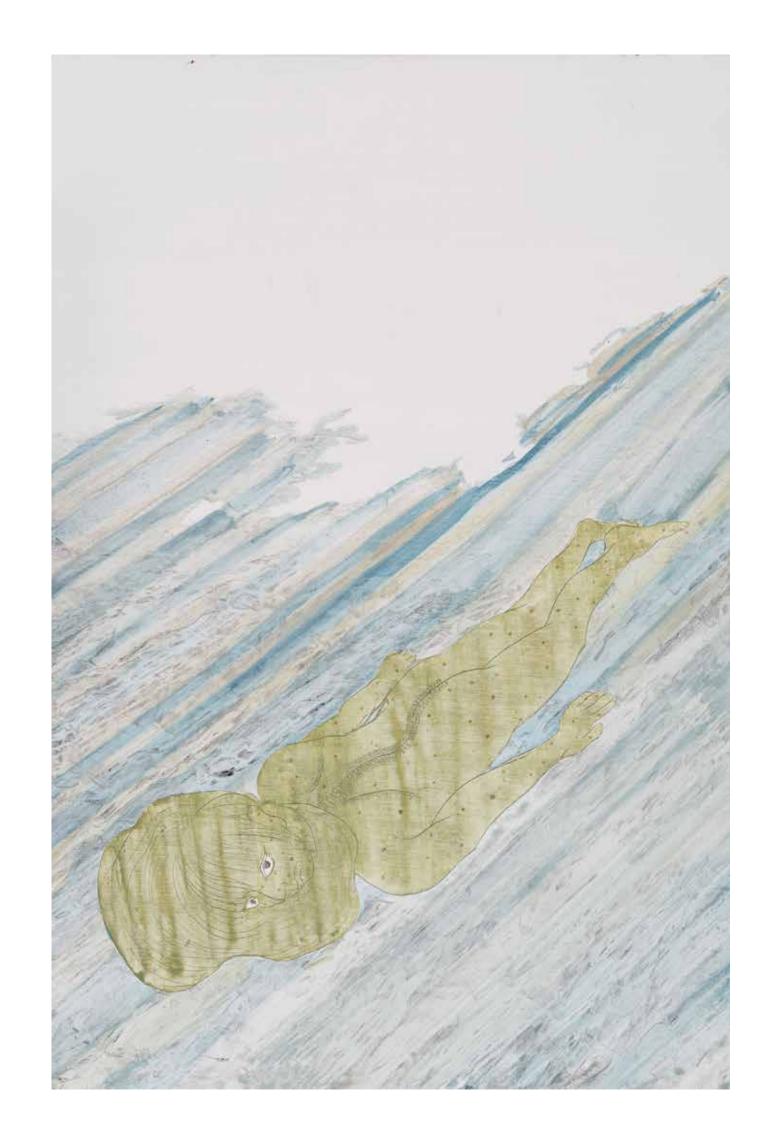




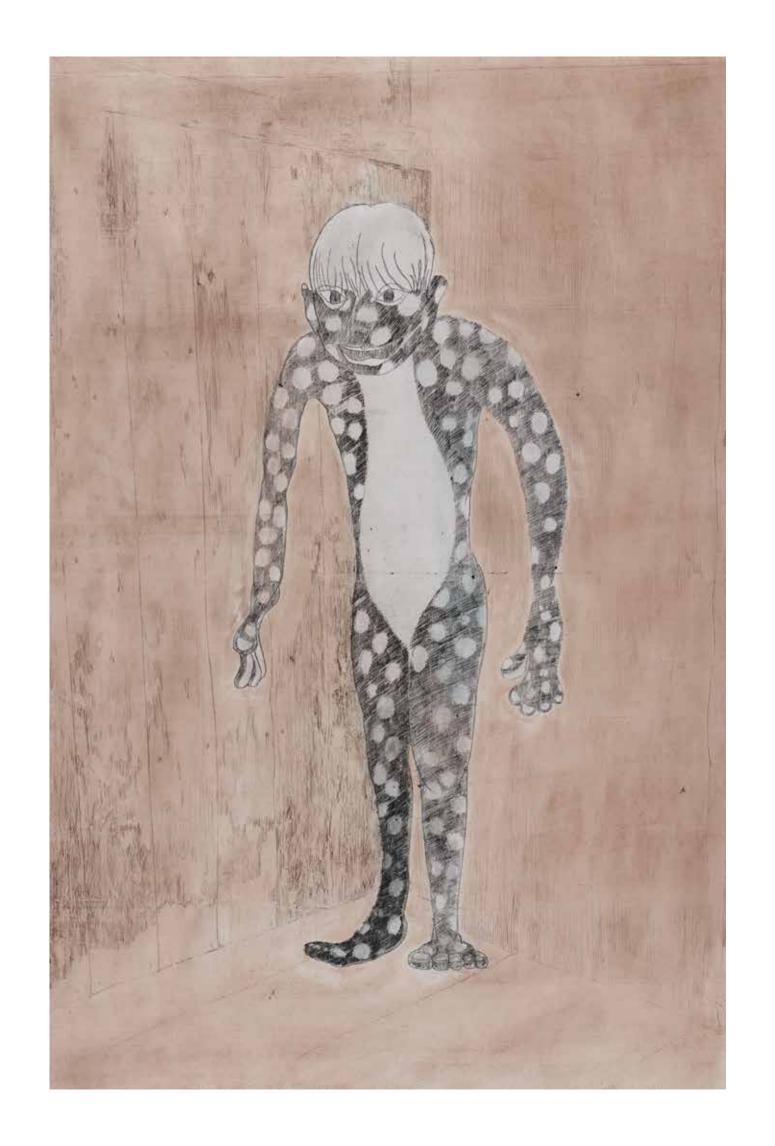




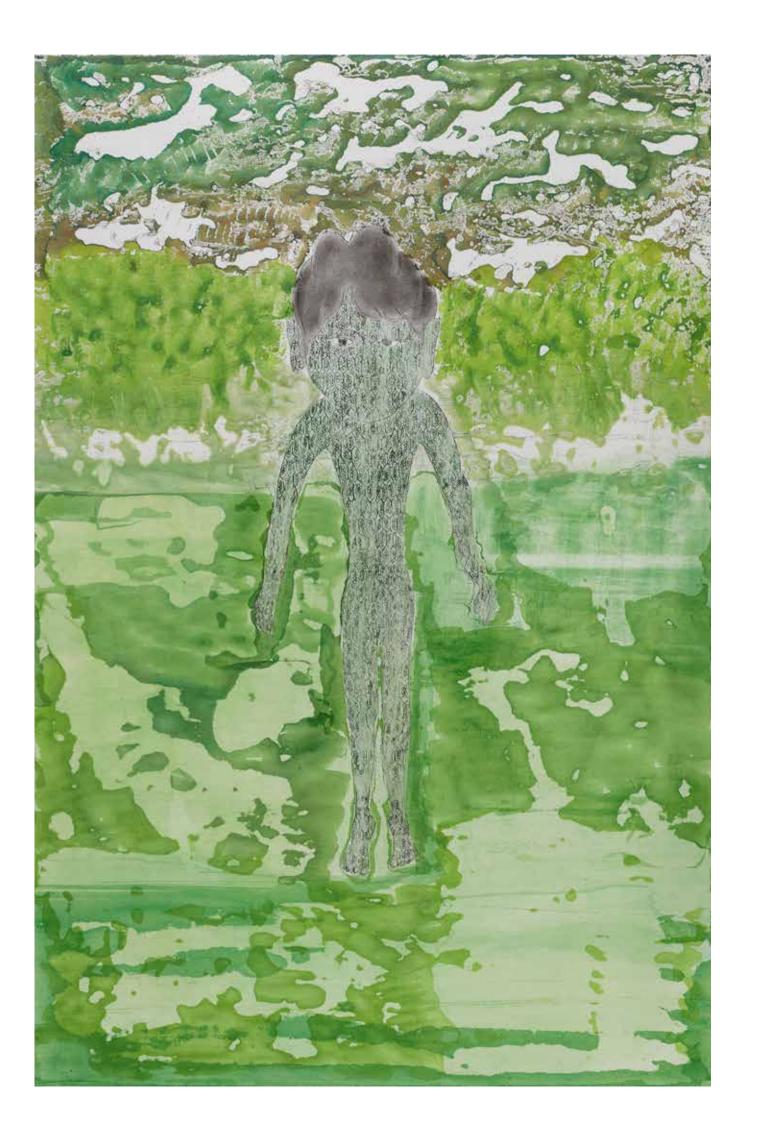
















空想のような絶滅 (#1, #2, #3, #4)

2014

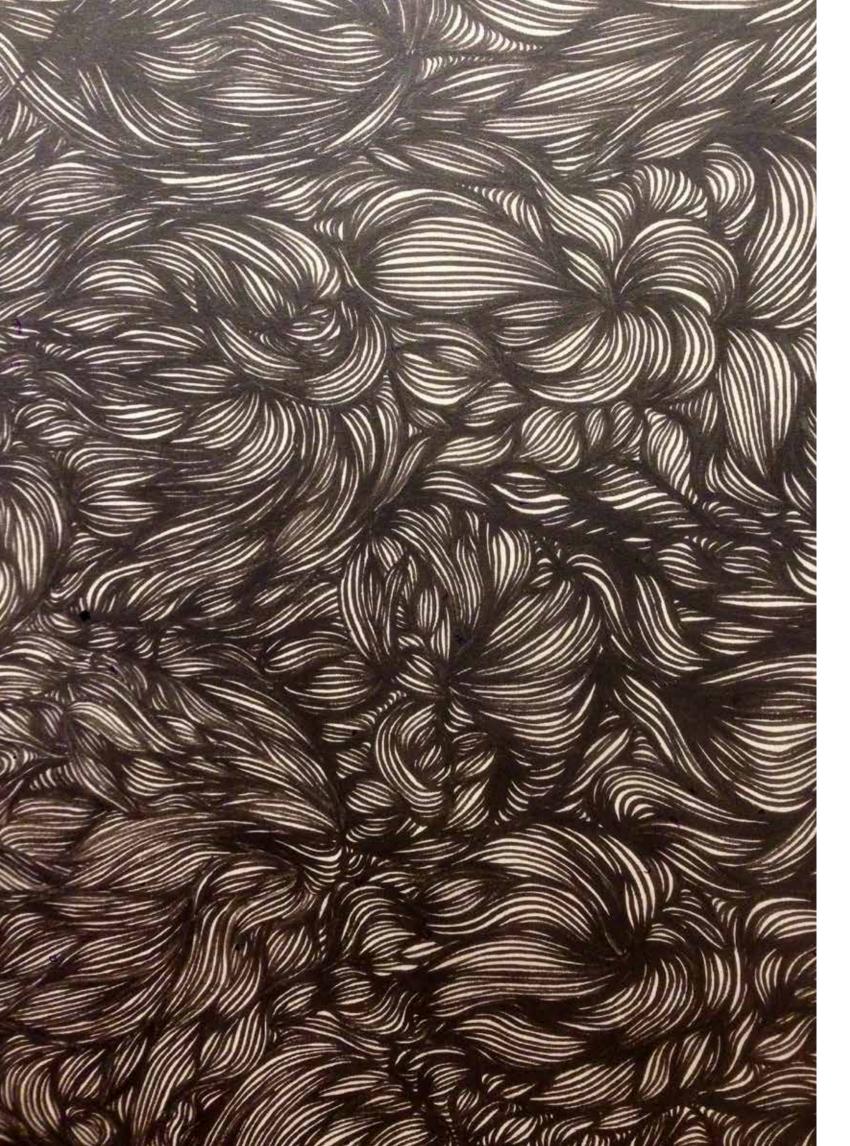
「絶滅考 2」

(広島芸術センター,広島市中区光南2丁目17-1小中ビル1階,広島) #1 パネル(木)、クレヨン、アクリルガッシュ | 1100 × 720 mm #2 ベニヤ板、アクリルガッシュ | 900 × 1800 mm

#4 ビデオ4分



私は絶滅動物を想像によって新たに作り出そうとした。 絶滅動物と聞いて私が真っ先に思い出したのは、恐竜だった。 恐竜のような 絶滅動物を私なりに想像してみると、細部まで正確にイメージが浮かんできた。存在することのない、誰も知らない絶滅動物に私は変 身した。本作品はその新種絶滅動物を描いた作品である。





街灯は人知れず眠る

2015

[Schroedingers Katze]

(Wissenschaftszentrum Bonn, Deutschland)

キャンバス、アクリルガッシュ|2800 × 3000 mm

展覧会"シュレディンガーの猫"(2015)出品作。

シュレディンガーは量子力学の研究で、その不可思議な現象を、猫を用いた架空の実験で説明している。ランダムに毒を発生させる装置と猫を防音の密閉空間に入れる。観測者はその空間を開けるまで、猫が死んでいるか、生きているか知るすべはない。シュレディンガーはその状態を猫が死んでもいるし、生きてもいる状態であるといった。

本作では普段見ることのできない猫を作り出すことを試みており、友人らの後頭部を集めるように描かれている。





Courtesy of Tsushima Art Fantasia, Photo by TADASU Yamamoto

ツシマオウゴントラユリ

2018

「対馬アートファンタジア 2018」 布、クレヨン、アクリル絵の具 | 3000 × 2800 mm

対馬の固有種であるオウゴンオニユリは、もう何年も自生しているものは見つかっていないという。

私は幸運にも、対馬でオウゴンオニユリを育てている方から、その花を見せてもらう機会に恵まれた。 山の中の金網で囲われた一画には、たくさんの様々な植物が生い茂っており、一際強い存在感を放つその花は、森に潜む虎のようだった。

対馬には、ツシマ大ヤマネコ、あるいは虎、豹と遭遇したという口伝がいくつか残されている。

昔、ツシマ大ヤマネコに見えたのはオウゴンオニユリだったのかもしれない。あるいはその反対に、私が見た花はツシマ大ヤマネコ、 あるいは虎、豹だったのかもしれない。



園田昂史 | Takashi SONODA

1989 熊本生まれ

- 2014 広島市立大学大学院芸術学研究科博士前期課程造形芸術専攻 修了 論文『円空の円熟期 思想から生まれた表現 』
- 2014 広島市立大学大学院芸術学研究科博士後期課程総合造形芸術専攻 入学
- 2015 海外交換留学プログラム、ドイツ・アラヌス大学大学院造形芸術科油絵専攻にてウーベ・バッテンバーグに師事 (2015 年 3 月 ~2016 年 2 月)
- 2018 同大学大学院芸術学研究科博士後期課程総合造形芸術専攻 満期退学
- 2018 同大学芸術学部彫刻専攻協力研究員
- 2018 平成 30 年度ポーラ美術財団在外研修員としてドイツ、アルフターに滞在(2018年9月~2019年8月)
- 現在 ドイツ・アラヌス大学大学院造形芸術科彫刻専攻にてヨハン・ブレーメに師事

プロジェクト

- 2018 対馬アートファンタジア 2018 (対馬市各所、長崎) 運営、出品作家として参加
- 2017 対馬アートファンタジア 2018 (対馬市各所、長崎) 運営、出品作家として参加
- 2016 対馬アートファンタジア 2018 (対馬市各所、長崎)運営、出品作家として参加
- 2014 対馬アートファンタジア 2018 (対馬市各所、長崎)運営、出品作家として参加
- 2013 対馬アートファンタジア 2018 (対馬市各所、長崎)運営、制作補助として参加
- 2012 石彫シンポジウム仙養ケ原 (神石高原町仙養ケ原、広島) 運営、出品作家として参加
- 2012 ヒロシマ・オーヒロシマフクシマ (旧日本銀行広島支店、広島)

受賞歴

2019 -DAAD-Preisträger 2019

展覧会歴

- 2019 「Weckelweiler Raum und Kunst」 (Sozialtherapeutische Gemeinschaften in Weckelweiler、ドイツ)
 - 「ANBERAUMT」(Künstlerforum Bonn、クンストフォーラム・ボン、ドイツ)
 - 「Roisdorf Ausstellung」(Roisdorf in die Halle、ローイスドルフ駅横空き倉庫、ドイツ)
- 2018 「対馬アートファンタジア 2018」(対馬市厳原町各所、旧対馬市立久田小学校内院分校、長崎)
 - 「カウンターシェード」(広島芸術センター、広島) 個展
- 2017 「池アートフェスティバル vol.2」(竜門小学校、熊本) 招待
 - 「DMZ (非武装地帯) 芸術祭」(ハッチョン、韓国) 招待
 - 「益城町にアートがやってきた 熊本ゆかりのアーティスト作品展 <熊本のこころとかたち>」 (犬飼記念美術館、熊本) 招待
 - 「対馬アートファンタジア 2017」(銀行ショーウィンドー、対馬市厳原町、長崎) 運営、出品
 - 「ハチのハナ ハナのハチ Wechselwirkung」(ギャラリー交差 611、広島)企画、出品
- 2016 「第2回博多阪急秋の学園祭」(博多阪急1階、福岡)招待
 - 「子猫を一匹飼っている 州끼 고양이를 한 마리 기르고 있다」(Space Dot、広域市中区 40 階段道 10 3 階、釜山) 招待
 - 「対馬アートファンタジア 2016」(親和銀行ショーウィンドー、対馬市厳原町、長崎) 運営、出品
 - 「いつも見ていた石畳の名前をふと考える」(横川創苑、広島市西区横川町、広島) 個展
 - 「.com」(広島市立大学芸術学部棟 5 階芸術資料館、広島)企画、出品
 - 「Gruus und Ruse」(Die Jugendherberge, Bernkastel-Kues、ドイツ) 招待
- 2015 「Die fruehe Handlung der Bienen Marian Hause」(pelzstr 11、アルフター、ドイツ)企画、出品
 - 「Das angenehme Geraeusch」 (o.N. Kunst Zeit Raum、ケルン、ドイツ)企画、出品
 - 「Schroedingers Katze」(Wissenschaftszentraum Bonn、ドイツ)招待
 - 「TSUSHIMA ART FANTASIA 広島 対馬」(泉美術館、広島)招待
- 2014 「絶滅考 2」(広島芸術センター、広島)出品
- 2013 「彫刻の五·七·五 HAIKU-Sculpture2013 かたちで詠む 奥の細道」※この展覧会は下記の 2 会場で行われています。 (7月/那覇市、沖縄県立芸術大学芸術資料館 9月/仙台市 宮城県立美術館県民ギャラリー)出品
 - 「ヒロシマ・オーヒロシマフクシマ」(旧日本銀行広島支店)運営、出品
- 2010 枝のわかれ 先の先 第1期 | 広島芸術センター、広島 / 第2期 | 手織工房 Teoriya LD、広島
 - ヒロシマ・オー 広島の育むアート | 旧日本銀行広島支店、広島
 - チクチクフレッシュコンテンポラリー | 広島芸術センター、広島
 - 平均ハタチ展 | 広島本町クレド、広島
- 2009 -CHIKUSENDOCONTEMPORARY | 僊堂ギャラリー、広島